

全国の仲間との交流から気づきへ！

第24回自治労青年女性中央大交流集会開催

6月14日～16日に山梨県山中湖で第24回自治労青年女性中央大交流集会が開催され、岩手県職労から4人が参加した。本集会は6年

ぶりの通常開催で、全国から387単組1,052人が参加し、暑い中熱い思いをもって集いに結集した。はじめに石上実行委員長

から、「ジュネーブでILO総会に参加し、公務員の労働基本権問題と消防職員の団結権回復問題について、認めるべきと伝えてきた。自分や職場の常識が本当に常識なのか、全国の仲間と

議論を深めてほしい」と挨拶をいただいた。1日目の基調講演は、埼玉大学伊藤名誉教授から講演をいただいた。現在の社会の問題は、大多数の賃金労働者と利益を貯めて太る人(経営者)で大きな格差が生まれている。利潤を求めするために、労働の時間の延長、労働密度を高めることなど、労働者の犠牲が強められている現状があり、今の社会を変えるためにも労働者の団結が必要であると熱い講演をいただいた。

2日目は、職種別分散会を行った。職場の人員が減らされる一方、自治体ニーズはますます高くなり、長時間労働で日々疲弊しながら業務をこなしている実態が明らかになった。また、各自集会に向けて、桃手帳(生活・職場実態点検手帳)付けを行い、1か月間の支出や出勤時間等の点検を行った。睡眠や食事でHP(ヘルスゲージ)、趣味等を満たすことでMP(メンタルゲージ)が回復すると思うが、ほとんどの仲間は自分の趣味にかけるお金・時間を削って働いていることが実態として出された。物価上昇に賃金が追いついていないのに、手当等の見直しが行われる可能性があり、今後も春闘などで労働者が団結して共闘する必要があると確認することができた。

3日目の記念講演は、関東労働大学の菅原講師から「戦争ができる国づくり」と自治体労働者について講演していただいた。着々と進められている戦争ができる国づくりに対して、戦争が起きた際、私たち自治体労働者はどのようにして関係していくか、データやイラストを用いながら細かく説明いただいた。何が起きているか、その事態をどう考えるか。学習と交流を深めることが大事であるとお話をいただいた。



▲県職労からの参加者で記念撮影

▲関農業改良普及センター分会での意見交換の様子

各職能評協議会

人員など継続課題解決に全力

各支部・分会での意見交換会の開催を



▲関農業改良普及センター分会での意見交換の様子

昨年度までは、コロナ等を理由に見送っていた各支部単位での職域別の意見交換会について、人員体制の確保、職場環境の改善、専門職種の賃金・諸手当の改

善等に向けて、各評協議会での独自要求の取り組みを進めるべく、7月から8月にかけて開催する。保健福祉部門、農業改良普及部門、農林水産部に係る試験研究所部門、畜産家畜保健衛生部門、各土木部・土木センター部門ごとに各主管部局あての要求書の作成を進めていく。(既に、現業・税務・職訓も並行して独自要求に向け検討中)。各職域における職場課題については豚熱対応や今年度の職場実態をはじめ様々な職場課

題について、組合員の意見交換を通して、秋の確定闘争と並行して要求・交渉を強化していく。過重労働を強いられている職場実態を

豚熱対応

激務労働への改善求める

5月28日、県内初の豚熱が発生。多くの組合員が暑さの中で激務に従事した。県職労は事案発生直後に当局と勤務労働条件の確保を求め、かつ作業が長期化する

中であって、職員健康が管理対策(特にメンタルヘルス対策)を求めた。

①これまでの対応事項
ア 勤務時間
従事時間は勤務時間の割

り振り変更となるも、移動時間を含めて勤務時間の対象とみなし、これを超えた分は超過勤務時間とさせた。

②引き続き課題点
ア 恒常的な人員不足
各職場では4日に1回のペースで動員を余儀なくされ、その間の業務対応が追いつかず、職場では一層の人員不足を強いられる状況に陥った。そうした中、再任用職員や今年定年引上げ

の対象職員も動員対象となつた職場もあった。

イ 労働災害への対応
作業中に豚に足を踏まれた等の労働災害が確認された。危険を伴う業務である以上、労働災害を想定した救護体制などが求められる。

ウ メンタルヘルス対策
と殺現場では豚の鳴き声を聞き、と殺の現場を目標しながら従事した。この結果、メンタル不調を訴える職員も相次いだ。

鳥インフルエンザとは異なる豚熱特有の課題も明らかとなっており、県職労は組合員からの意見をもとに当局に改善を求めていく。

自治労組織内

『岸まきこ 参議院選勝利！総決起集会』に参加しよう

岸まきこさん本人が出席します。みんなで参加しましょう。

参議院議員(自治労組織内議員)
岸まきこ とともに

自治労の政策要求を実現しよう!

- 地域密着の公共サービスを
- 格差のない持続可能な社会を
- 全世代対応の社会保障制度を
- ジェンダー平等社会の実現を
- 平和な国際社会の実現を
- 地域分散型エネルギー社会を

声を力に、
一歩前へ



公式HPや各種SNSで、日々の活動を発信中!

自治労は、第27回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」参議院議員の擁立を決定しました。

参加報告は各支部書記局あてをお願いします。

日時：7月12日(金) 18時～20時
会場：サンセール盛岡 2階中ホール
(盛岡市志家町1-10)

組合加入促進等に活用しよう!



2024年5月号表面

2023年5月号裏面

青年婦人部では新採用職員向けに「新採用ニュース」を定期発行しており、労働組合の取り組みや給与明細の見方、昇給・昇格の仕組みなどを掲載しています。新採用職員への声かけツールの一つとして作成していますが、ちょっとした学習会資料としても活用できますのでご利用ください。

平和の火を走りつなぎ 反核と恒久平和を訴える

国への「核兵器禁止条約」署名の働きかけを知事に要請



▲達増知事に要求書を手渡す佐々木実行委員長(岩教組)(右)



▲左から、中川原亮さん(県職労県庁支部)、須藤本部中執、達増知事、佐々木実行委員長、菊池実行委員(高教組)

6月7日から9日にかけて、第35回反核・平和の火リレーが開催され、「語り継ごう、走り続けよう ヒロシマ、ナガサキの心を」をスローガンに掲げ、延べ139人のランナーで広島平和記念公園から採火した「平和の火」を二戸市から一関市まで走り継いだ。

と声援を受けながら平和の火をつなぎ、ゴールの一関市(一ノ関駅)まで無事に走り継ぎ、この3日間走っているランナーと共に街宣車からアナウンスで「核のない、二度と戦争が起らない、平和な社会の実現」や「核廃絶」などを沿道の方々に訴えた。

リレー前日の6日には、日本青年学生平和友好祭岩手県実行委員会の佐々木実行委員長(岩教組青年部長)と参加した実行委員、そして小西和子県議の5人で達増拓也県知事を訪問し、要請行動を行った。佐々木実行委員長は、「非核・平和自治体宣言」を活かし、平和行政の推進につとめること、有事関連法に基づく国民保護計画によって様々な規制・制約を受けることが想定されるため、いかなる場合も住民の生命と基本的人権を優先する政策を実現すること、すみやかな核兵器廃絶、平和な国際社会の実現と国民の基地負担の軽減を働きかけること、原発の再稼働、原子力政策の今後の在り方について、自然エネルギーの普及促進を図ることの5つの取り組みについて知事に要請した。



知事への要請書

これからの県職労青年婦人部として平和友好祭運動の取り組みを進めていく。

地方の自主性を尊重した 給与制度を求める署名の取組

給与制度を求め署名の取組

人事院は、23人勸で示した「給与制度の整備」(以下、アップデート)骨子案をもとに現給与制度の見直しを進める。内容は初任給水準を引き上げるものの、総合職を優遇、管理職層の賃金をより能力主義的に引上げる。加えて、配偶者扶養手当を引下げ等生活的要素を縮小するもの。地域手当の引上げも検討されるが、恩恵を受けない地域も多く、自治労は「地方の実態と自主性を尊重した給与制度を求める署名」を5月末まで取り組んだ。



▲沿道からの声を受けて走る胆江支部清水栄作さん(左) 芦壁翔太さん(中央)、小川裕希江さん

要請項目は、①アップデートによる国の給与制度の変更を自治体に強要しないこと、②法律上国給与制度を基本とする地方公務員給与を地方の実態を踏まえ自主的に決定する制度とすること、③国基準を上回る手当支給への特別交付税減額措置を撤廃すること、の3点。今署名は1,604筆の集約となった。職場での取り組みに感謝する(県本部で8,899筆)。自治労はこの全国50万筆超の署名をもとに総務省との交渉を強化する。

胆江・宮古北上・一関支部が24体制確立



鳥屋部胆江支部長

胆江支部長には鳥屋部主さん(県税部分会)、宮古支部長には小野寺利幸さん(地域振興センター・審査指導監分會)、北上支部長には阿部将久さん(農研センター分會)、一関支部長には佐藤拓さん(保健福祉環境センター分會)が選出され、支部活動をスタートした。役員・氏名は次のとおり。

胆江支部長 鳥屋部主(県税部分会)
副支部長 本間 義章(産技短水沢校)
書記長 佐藤 正(農政部農村整備室)
書記次長 佐々木琢磨(経営企画部)
中川 理恵(総務部・審査指導監分會)
執行委員 大谷 孝文(保健福祉環境センター分會)
伊藤 弘(林務部)
及川 浩一(農政部)
山田 一晴(土木部)
千葉 彩(労務改善センター)

宮古支部長 小野寺利幸(農研センター分會)
副支部長 長崎 玲治(岩泉土木センター)
書記長 遠藤 敬(水産振興センター)
書記次長 光井 太平(保健福祉環境センター)
藤原 聡史(宮古土木センター)

北上支部長 阿部将久(農研センター)
副支部長 佐藤 真(農業普及技術課)
書記長 及川 耳呂(県立農業大学校)

一関支部長 佐藤 拓(保健福祉環境センター)
副支部長 千葉 守(農業改良普及センター)
書記長 佐藤 潤孝(農林振興センター)

執行委員 酒井 新吾(北上土木センター)
佐藤千穂子(労務改善センター 西和賀分會)
高橋 祐也(農研センター)
吉田 優里(農研センター)
及川 美佳(農研センター)
及川 竹生(県立農業大学校)

執行委員 大友 英嗣(農政改良普及センター)
高橋ひとみ(千厩土木センター)
佐々木 実(一関土木センター)
小野寺恒子(総務部・審査指導監分會)
石田 俊幸(児童相談所)
上野 覚(農林振興センター)
多田 典穂(農村整備センター)
佐藤 淳精(一関土木センター)
千葉 輝文(農村整備センター)

東北ろうきん サマーキャンペーン

夏キャン

2024 6/1 ▶ 7/31

対象となるお取引をご契約いただいた方全員に岩手県産うるち米を使用した「ポリフリー(のり塩味)」をプレゼントいたします。

詳細はこちら

2024年6月1日現在